

資料 2

前回の料金改定の効果について

1 前回の改定の視点(平成29年4月1日改定・答申内容)

- ア 平成25年度の下水道使用料改定における、利用者間の負担の適正化及び一般会計からの基準外繰入金
の解消が図られたことによる、現行の排水量区分などの使用料体系の継続
- イ 安定的な下水道使用料収入の確保に向けた、料金等徴収業務包括委託業務における水洗化普及業務の
追加と、総合計画後期基本計画と連動した、水洗化率の設定
- ウ 平成28年度の企業会計への移行により、明確となった今後の経営状況を見据えたことによる、経営基盤の
強化

2 改定の概略

- ア 平均改定率 5%
- イ 排水量区分などの使用料体系は、従来(平成25年使用料改定)と変更なし

3 改定の効果

(1) 経営状況の推移

		← 料金改定期間 →			
		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度※1
下水道使用料収入 (千円)	実績	2,007,835	2,100,540	2,111,053	2,082,842
	計画	—	2,140,741	2,155,556	2,177,778
一般会計繰入金 (千円)	実績	2,102,905	2,131,109	2,131,888	2,057,342
	うち基準内	2,096,542	1,707,905	1,622,039	1,584,533
	うち基準外	6,363	423,204	509,849	472,809
	計画	—	2,100,000	2,050,000	1,940,000
	うち基準内	—	2,100,000	2,050,000	1,940,000
	うち基準外	—	0	0	0
有収水量(m ³)	実績	14,600,271	14,669,791	14,666,363	14,581,029
	計画	—	14,988,725	15,143,120	15,320,145
水洗化人口(人)	実績	127,041	127,376	128,147	128,983
	計画	—	130,853	132,362	134,096
水洗化率(%)	実績	89.7	89.7	90.1	91.0
	計画	—	92.8	93.6	94.0
営業収支比率(%)※2	実績	65.8	65.7	68.4	70.6
補填財源残高(千円)	実績	416,895	605,893	832,610	1,037,111
	計画	—	442,000	677,000	855,000

※1 令和元年度は見込み

※2 営業費用に対する営業収益の割合で、指数は高いほど良い。(営業収益－受託工事収益)/(営業費用－受託工事費用)×100

下水道使用料収入は、料金改定後の平成29年度は前年比+92,705千円(+4.6%)、30年度は+10,513千円(+0.5%)とそれぞれ増収となったが、令和元年度では△28,211千円(△1.3%)の減収となった。

これは、水洗化普及業務に努めたものの、水洗化率の目標に実績が届かなかったことに加え、人口減少や節水機器の普及等に伴い有収水量の減が主要因であると考えられる。

前述のとおり、30年度までは増収となり、令和元年度は減収見込みであるが、令和元年度見込み額は改定前の28年度を上回っていることから、一定の効果はあったと考えられる。

なお、一般会計からの基準内繰入金は、汚水の企業債借入額の上限(5億円)設定等により減少傾向となったものの、26年度からスタートした大根第10雨水幹線整備事業や、繰出金に係る国の基準が初めて明確になったことにより、29年度からは基準外の繰出金が増額し、繰入金全体としては、計画値を+117,342千円超える結果となった。

また、補填財源残高については、事業経営の見える化により計画の目標額を超える結果となった。但し、一般会計からの繰入金を減らすため、令和2年度予算では計画額(1,023,129千円)としている。

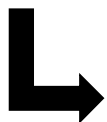
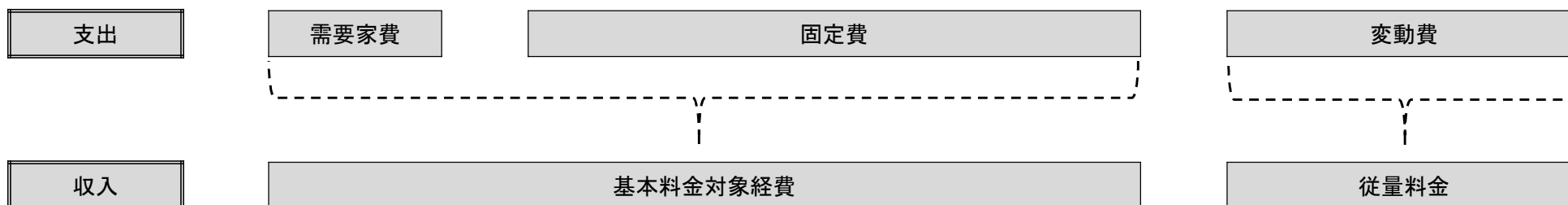
(2) 使用料対象経費への影響

ア 基本的な考え方

① 下水道使用料対象経費の割り振り

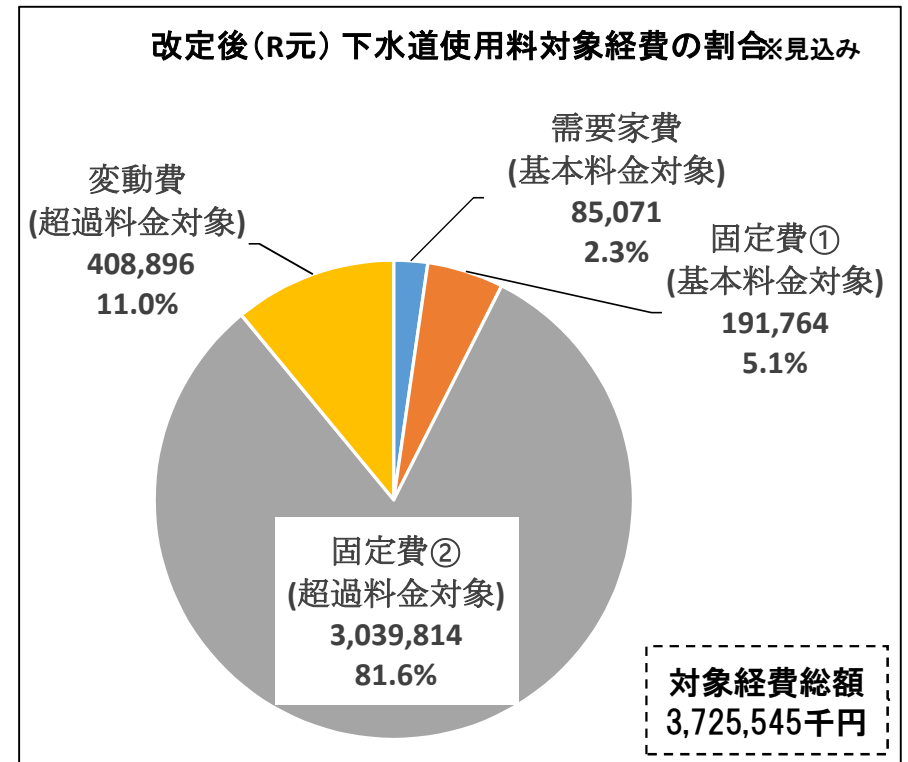
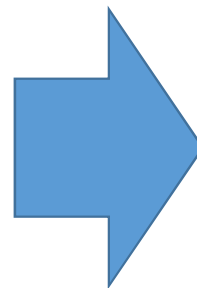
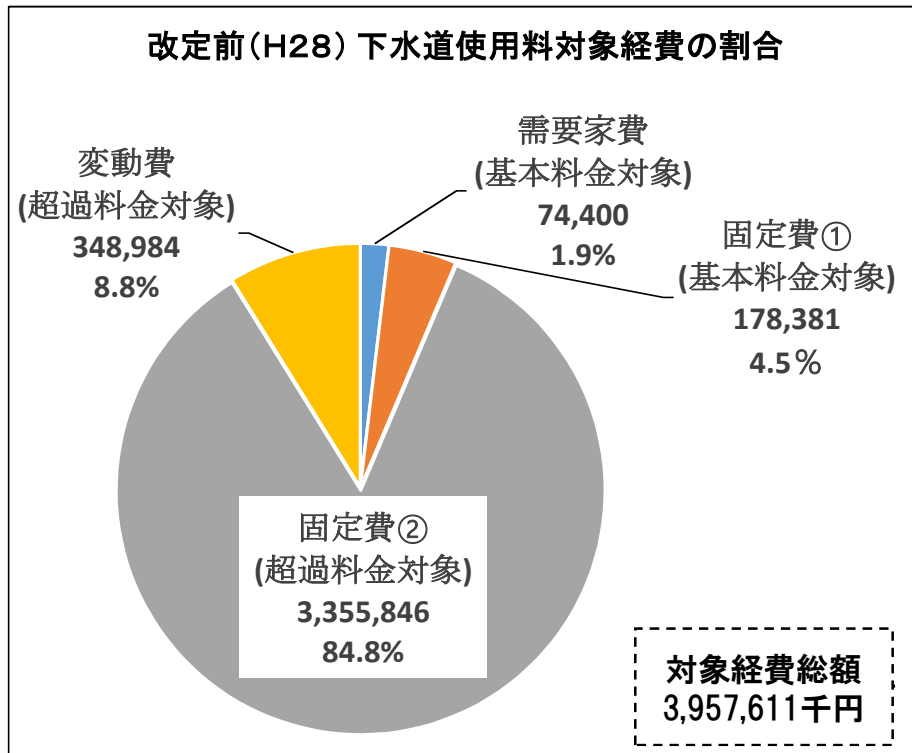
需要家費	固定費	変動費
下水道利用者数に対応して増減する経費 (使用料徴収経費等)	下水道施設の規模に応じて固定的に必要な経費 (資本費、維持管理費)	下水道使用水量の多寡に応じて変動する経費 (動力費、薬品費)

② 割り振りのイメージ



需要家費及び固定費を基本料金として付加するのが適当であるが、使用料対比に占める固定費が極めて大きいことから、その一部を基本料金として賦課し、他を従量料金として賦課することが妥当である。【出所:下水道使用料算定の基本的考え方(日本下水道協会)】

イ 料金改定前と改定後



使用料改定前については、固定費及び需要家費の合計6.4%を基本料金収入で賄っていたことに対し、改定後は7.4%と、1ポイント改善した。

4 年度別建設(投資)計画及び実績表

(上段:実績/下段:計画)
(単位:百万円)

事業区分等		計画区分・年度	総合計画後期基本計画					平成28~令和2年度計		
			下水道使用料算定期間							
			平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度			
管きよ建設	汚水	幹線管きよ整備事業	65.4	11.3				76.7		
			63.8	47.9				111.7		
		枝線管きよ整備事業	444.6	197.0	128.2	158.4	220.2	1,148.3		
			584.0	157.8	307.2	243.3	267.9	1,560.1		
		管路耐震化事業	103.9	116.3	27.1	14.8	60.0	322.1		
			125.1	128.0	55.0	67.0	71.1	446.2		
							0.0			
							0.0			
	事務費	41.5	41.1	31.2	32.5	36.6	182.9			
		9.9	10.0	10.0	10.0	10.0	49.9			
	小計	655.4	365.7	186.4	205.7	316.8	1,730.0			
		782.8	343.6	372.2	320.3	349.0	2,167.8			
	管きよ建設	雨水	幹線管きよ整備事業			20.0	81.0	114.0	215.0	
				196.4	148.1	44.5	202.7	192.2	783.9	
			枝線管きよ整備事業	242.0	245.5	204.5	238.0	218.0	1,148.0	
				364.9	57.8	348.9	358.1	99.7	1,229.5	
			大根鶴巻浸水対策	幹線管きよ整備事業	243.0	270.0	220.0	150.0	142.0	1,025.0
				枝線管きよ整備事業	102.0	63.2	160.3	62.7	81.4	469.6
		140.0	105.0	60.0	60.0	60.0	425.0			
事務費		48.9	50.3	46.6	36.7	29.9	212.5			
		5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	25.0			
小計		712.1	319.5	600.4	706.6	403.2	2,741.8			
	630.0	625.5	509.5	534.0	539.0	2,838.0				
	1,367.6	685.2	786.8	912.2	720.0	4,471.8				
	1,412.9	969.1	881.7	854.3	888.0	5,005.9				
処理場建設	汚水	再構築推進事業	1,202.0	159.3	27.9	618.0	54.1	2,061.2		
			1,353.8	22.3	59.1	248.7	301.1	1,985.0		
ポンプ場建設	汚水	鶴巻中継ポンプ場改築事業	5.8	3.7	31.0	2.9	21.9	65.2		
			7.5	10.0	10.0	10.0	10.0	47.5		
	雨水	大根川ポンプ場改築事業				96.6		96.6		
							0.0			
その他	汚水	伊勢原市への建設負担金	68.9	48.6	42.0	58.8	78.5	296.7		
		流域下水道建設負担金	80.6	62.3	24.0	32.4	100.9	300.1		
建設改良費 合計			2,644.2	896.8	887.7	1,688.5	874.4	6,991.6		
			2,854.8	1,063.7	974.7	1,145.4	1,300.0	7,338.5		
内訳	汚水		1,932.1	577.2	287.3	885.3	471.2	4,153.2		
			2,224.7	438.2	465.2	611.4	761.0	4,500.4		
	雨水		712.1	319.5	600.4	803.2	403.2	2,838.4		
			630.0	625.5	509.5	534.0	539.0	2,838.0		

※ 百万円単位での表示のため、端数処理(四捨五入)により計が合わない場合があります。